

腕時計型センサーで健康管理

心拍数、歩数測定
住民に無償貸与

更別村

【更別】村は1日、情報通信技術（ICT）を活用した健康管理対策として、村民に心拍数や歩数などを常時測定できる腕時計型のセンサーなどを無償貸与する実証実験を始めた。

最先端技術を取り入れたまちづくりを進める国の「スーパーシティ」構想への申請を見据えた村の取り組みの一つで、村内の30〜80代の男女15人を対象に来年1月末まで行う。



更別村の健康サポート事業に使う腕時計型生体センサー（左）とスマホのアプリ画面

センサーは医療健康サービスを提供する奈良県のベンチャー企業MBTリンクが開発。4カ月の間、入浴時以外はできるだけ装着してもらおう。データはスマートフォンに送られ、専用アプリで参加者が各自チェックする。

村は、医療費の削減や高齢者の見守り強化につなげたい考え。本格導入された場合には、センサーを通じて得られた数値を医療関係者に提供し、村民の体調管理に活用したり、遠隔医療を受ける際の参考データとしたりすることも目指す。

西山猛村長は「高齢者の医療や福祉を向上させ、村民が過こしやすいまちづくりに取り組みたい」と話している。

（鈴木理詞）